-臨床研究に関する情報および臨床研究に対するご協力のお願い-

現在、病理学講座では、本学で保管している診療後の残余検体と診療情報等を使って、下記の研究課題を実施しています。

この研究課題の詳細についてお知りになりたい方は、下欄の研究内容の問い合わせ担当者まで直接お問い合わせください。なお、この研究課題の研究対象者に該当すると思われる方の中で、ご自身の検体・診療情報等を「この研究課題に対しては利用・提供して欲しくない」と思われた場合にも、下欄の研究内容の問い合わせ担当者までお申し出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

[研究課題名]　甲状腺腫瘍におけるオステオポンチン発現機序に関する研究

[研究対象者]

2017年4月～2022年3月までの間に、東京女子医科大学内分泌外科にて甲状腺腫瘍と診断され、甲状腺腫瘍の切除手術を受けられた方で、過去に実施された臨床研究「甲状腺腫瘍におけるオステオポンチン発現機序に関する研究」にご同意いただいた方。

[利用している残余検体・診療情報等の項目]

残余検体：手術時に切除された甲状腺の一部（うち、残余があるものに限る。）

診療情報等：診断名、年齢、性別、血液検査結果

[利用の目的]　（遺伝子解析研究：　無 ）

この研究で調べるオステオポンチンは、正常の人の身体では骨の形成を促して人間の成長に重要な役割を果たしているタンパク質です。近年この物質が骨以外にもいろいろな細胞、特に腫瘍細胞の増殖に深く関わっていることがわかり注目されています。しかし、甲状腺腫瘍でのオステオポンチンの働きについてはまだ良くわかっていないことが多く、現在でも多くの研究が行われています。この研究では、同意していただいた患者さんから手術によって取り出された甲状腺腫瘍の残余部分をご提供いただき、オステオポンチンとその関連物質を測定することで、この病気の機序を明らかにして、治療法の向上に役立てることを目的としています。

[研究実施期間]　倫理審査委員会承認後より2027年3月までの間（予定）

[この研究での検体・診療情報等の取扱い]

本学倫理審査委員会の承認を受けた研究計画書に従い、お預かりした検体や診療情報等には氏名、生年月日等の情報を削り、個人が特定されることがないように加工をしたうえで取り扱っています。

[機関長、研究責任者、および、研究内容の問い合わせ担当者]

機関長：東京女子医科大学　理事長　清水　治

研究責任者：東京女子医科大学　病理学講座　助教　有益　優

研究内容の問い合わせ担当者：東京女子医科大学　病理学講座　助教　有益　優

電話：03-3353-8111（応対可能時間：平日9 時～16 時）